

マテガイ *Solen strictus* Gould

【選定理由】

本種は内湾の砂質干潟に深く潜って生息する。食用種としてよく知られている。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。県内でも本種は砂質干潟に多産し、食用にされていた(愛知県科学教育センター, 1967)が、近年個体数が著しく減少し、多産する場所は非常に少なくなった。現在でも一色干潟や知多半島南部、渥美半島西部(三河湾、伊勢湾)などでは潮干狩りの対象とされており、本種が多産する干潟も確認されるようになったが、夏期に観察される幼貝の大量斃死は依然として広域で継続して発生しており、将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



幡豆郡鳥羽干潟, 2001年7月15日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 10 cm、殻は前後に著しく延長した長方形で直線的で、膨らみは弱い。殻はやや薄く、両端は裁断状。殻表は平滑で、生きている時は光沢の強い黄褐色の殻皮で覆われる。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国。国内では北海道南西部以南九州まで分布する。沖縄島にも分布し(久保, 2012)、沖縄島産の個体群は国のレッドリストで絶滅のおそれがある地域個体群に評価されている。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は悪化しているため、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。特に夏期の貧酸素水塊の発生は、本種(幼貝が多い)の大量斃死を引き起こしている可能性が高い。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

久保弘文, 2012. マテガイ, p. 171. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)